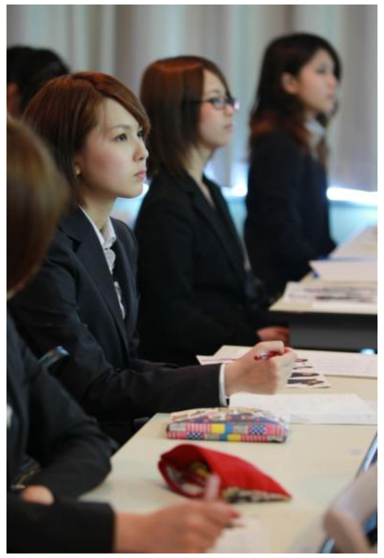
札幌大学
女子短期大学部
CHA-CHA-CHA 通信

第4号　平成25年8月1日発行　札幌大学女子短期大学部
〒062-8520　札幌市豊平区西岡3条7丁目3番1号　☎ 011-852-9135　http://www.sapporo-u.ac.jp

◆将来の夢や目標を見つけるきっかけづくりに　学生一人ひとりと面談を実施

短大は知識を学ぶ場であるとともに、社会に出てから職場や地域社会で、多様な人々と仕事をしていくために必要な人間力を培う場でもあります。
本学キャリアデザイン学科では、授業科目や体験プログラムを通じてのキャリア教育と学生自身がキャリア意識を醸成をするためのキャリア支援の双方向で体制を整えています。



そのキャリア支援の中でも、学生が一人ひとりキャリアビジョンを持って学生生活を過ごし、将来についてどのようにデザインしていくかを考えていくため、教員ナビゲーターや短大スタッフとの個人面談に力を入れています。
この個人面談は学期毎に実施し、学生のキャリアビジョンを徐々に明確化し、卒業後に社会で活躍する人材となるために今、何をすべきかを考え実践し、主体的に自分の人生を歩む力を身に付けることができるようサポートするものです。
５月には教員ナビゲーターとの個人面談を、定期試験前の6月下旬から7月中旬にかけては短大スタッフとのキャリア面談を実施しました。
面談を通して、希望進路をはじめ、学生の内面的な成長や積極性、本人の意思表示がはっきりと感じられました。確実に学生たちは一歩ずつ、将来の進路に向かって力強く歩んでいるのです。
志望する職種やキャリアビジョンは、一人ひとり異なりますが、学生の意志や思いを何よりも大切に考え、今後も段階を追って、教員およびスタッフが学生と個別に面談を行い、将来の進路を学生自身が具体的に描き、実現することをサポートしていきます。

【春学期実施のキャリア支援プログラム】

◆新入生オリエンテーション合宿（4月）
・自己紹介･他己紹介
・学びデザイン"キャリアビジョン"を考え、ワークシートに記入

◆教員ナビゲーターによる面談（5月）
・入学後の学生生活がスムーズに送れているかを確認

◆キャリア面談（6月～7月）
・授業や学生生活を振り返りながら、キャリアビジョンについて具体的な取り組みを考える
・夏期休業中の過ごし方や秋学期に向けての目標設定

◆春学期を振り返って　秋学期へ向けて

札幌大学女子短期大学部では、9月下旬まで続く長い夏休みに入りました。今春4月に誕生したキャリアデザイン学科の春学期を景山弘幸学科長に振り返ってもらいました。

▲新しい仲間に自己紹介
（4月2日　新入生オリエンテーション合宿）

４月１日の入学式、翌日の新入生オリエンテーション合宿からスタートしたキャリアデザイン学科での学生生活もはや4か月が過ぎました。7月末には初めての定期試験やレポート提出があり、いよいよ短大生活全開と言えるでしょう。
実際に授業を受けてみると、「この科目は一体何に役立つのだろう？」、「この宿題をやることで本当に就職に結びつくのか？」などといった疑問が湧いてくる時期でもあります。
高等教育において「何を学んだか」はもちろん大切ですが、より目を向けてもらいたいのは「自分がどのように学んだか、取り組んだか」ということです。
社会人として働く場面を想像してみましょう。「この仕事にどういう意味があるのか？」、「この業務をやることで給料が上がるのか？」といった疑問は会社内では問いとして成立しません。社員として限られた時間内で指定された業務をいかに上手くこなせるかが試されているのです。

▲スーツの完成を祝して、全員で「はい、スーツ！」
（7月16日　カレッジスーツプロジェクト）

キャリアデザイン学科で意識的に身に付けてもらいたいことは、「生きる作法」と考えています。生きる作法には、冷静な判断、誠実な態度、信頼に足る能力などが考えられます。これらの土台となるのが「教養」と呼ばれるものです。専門学校と違い、大学が様々な科目を勉強させる仕組みになっているのは、将来の土台となる教養を自ら獲得することを自覚させるためなのです。
外国語の勉強も、いかに工夫して未知なるものを自分のものにするかを訓練する格好の場でもあるのです。残念ながらすべての科目が必ずしも「Aを学べばBが身に付く」というものではありません。しかし、どの科目を学ぶ際にも「未知に触れ自ら工夫して自分のものにする」という真摯な態度がとれるようになれば信頼に足る人間として成長した証であると信じて疑いません。
「キャリア」とは就職も含めた「人生の道」という意味です。その道を自ら「デザイン＝切り拓く」するのが「キャリアデザイン」の考え方です。
一見遠回りに見えるかもしれませんが、日々学生として目の前の課題に真摯に取り組むことが、教養に基づく判断力を持ち、信頼に足る人間として社会貢献（＝就職）する確実な道であると考えています。 保護者のみなさまと共にご子女の成長を願ってやみません。